



地域医療の中核を担う八鹿病院

準にあります。このため、平成20年度においても引き続き行財政改革に取り組み、事務事業の取捨選択を行いながら行政コストの抑制と市債残高の圧縮に努めていく所存です。

二つ目には、生活路線バスについては、生活路線バスについてです。著しい人口減少と少子高齢化により集落としての共同生活の持続が困難となる集落が出現しつつある現状の中で、利用客の減少等により市民の生活の足である生活路線バスの維持運営が困難になりつつあります。

このような状況の中、昨年度に実施したタウンミーティングをはじめ、さまざまな機

会を通して多くの市民の皆様からお叱りや励ましのお言葉、地域の実情等を聞かせていただきました。これらを真摯に受け止め、市制発足5年目の節目を迎える平成20年度においては「地域を守り、地域とともに生きる」を市政運営のテーマとして掲げ、財政健全化を図りつつ「ともに働く元気の養父市づくり」をさらに進め、誰もが暮らしやすく、誰もが参加しやすい市政の運営に全力を傾注していく所存です。

以下、平成20年度の主要施策について、総合計画の大綱に沿ってご説明します。

## 「安心」

特徴的な地形を有する養父市にあっては、市民の日常生活のうえでバス交通は重要な役割を担っているところです。しかし、人口減少と自家用車の普及に伴い、年々バスの利用者が減少し、昨年9月末にバス会社よりバス運行路線の一部運行休止の営業方針が出されました。

市としては、市民の足を守ることを前提に、アンケート調査や集落懇談会を実施するとともに、「養父市地域公共交通会議」を開催し、今後の養父市の生活バスのあり方について検討を進めています。

次に八鹿病院の医師確保についてです。昨年の4月時点で産婦人科、眼科、小児科において医師不足による休診等が危ぶまれたところですが、兵庫県や鳥取大学等のご協力により医師の確保ができ、最悪の事態を避けることができました。

しかし、八鹿病院には医師が一人体制の診療科や患者数に応じた医師の配置が充分で

はない診療科があります。市民の皆様が安心を得るよう、引き続き、兵庫県、鳥取大学等に医師派遣の要請を行うとともに、市内の診療所や個人医院との連携を深め、医療体制の維持・充実に万全を期するよう努めます。

次に保健事業についてです。近年、10—20歳代で麻疹が流行し、多数の学校が休校するなどの状態が見られました。このため、麻疹の流行を防止するために、新たに中学1年生と高校3年生を予防接種対象とするとともに、就学前の乳幼児に対しては、各健診時に麻疹予防の周知と指導を行うなど感染症予防の対策に取り組みます。

次に、発達障害に関する子育て支援についてです。「コミュニケーション」が取りにくい「こだわりが強い」など、これまで個性として見られてきたことが、最近の研究により発達障害と関わっていることが判明しています。その発生率が10%に及び、育児の困難性や虐待、不登校につながるなど将来の生活自立が困難

になる恐れが指摘されています。

このため、早期発見、早期支援、早期療育につなげるため、言語聴覚療法士を養父市朝来市、香美町の3市町合同で雇用し、保育所や検診事業等に出向いて相談指導助言を行うなど、障害児やその保護者の負担を軽減し支援を行っていきます。

次に、病気や事故により機能障害が生じた方々の社会参加を促進するため、公共施設の身体障害者用トイレにオストメイト対応トイレを設置します。平成20年度はJR八鹿駅の公衆トイレに設置します。

また、視覚や聴覚に障害のある方々の公共機関窓口での問い合わせや各種申請手続時の負担を解消するため、情報支援機器やソフトウェア等を市役所、各地域局に配備し、社会参加がしやすい環境を整えます。

また、養父市では高齢化率の上昇傾向に伴って認知症の高齢者がさらに増えることが予想されるため、社会的な支援が今後における重要課題と